

報道機関各位

平成18年8月30日

東北大学大学院医学系研究科

## 「テトラヒドロビオプテリンの臨床応用に関する国際会議」開催のご案内

下記のとおり、国際会議を開催しますので、お知らせします。

### <概要>

「テトラヒドロビオプテリンの臨床応用に関する国際会議」が、この9月10～11日に松原洋一（東北大学医学部教授）と Nenad Blau（チューリッヒ大学教授）を会頭として、仙台市内で開催される。テトラヒドロビオプテリン（略称：BH4）は生体内で合成され、酵素の働きを助ける生理活性物質のひとつ。今回最大のトピックは、代表的な小児代謝疾患であるフェニルケトン尿症の治療薬としてBH4の有用性が米国での臨床治験で確認され、治療薬として承認される見通しとなった点。この画期的な新しい治療法は、東北大学医学部の呉繁夫・助教授（遺伝病学分野）、大浦敏博・助教授（小児病態学分野）らが1999年に世界で初めて報告したもので、「新治療の発祥地」での会議開催となる。フェニルケトン尿症は、アミノ酸の一つであるフェニルアラニンを分解する酵素の働きが先天的に低下している疾患で、たんぱく質を厳しく制限する食事療法を一生継続しないと知的障害や精神障害が生じる。わが国でも出生する新生児すべてを対象にスクリーニングが行なわれ、早期診断と早期治療が行なわれている。しかしながら、厳しい食事制限の実施は困難で、新しい治療法が切望されていた。BH4治療は内服薬だけで食事制限を中止ないし緩和できるようになるため、病気のお子さんやその家族にとって大きな福音となる。欧米では患者数が多いため関心が高く、米国製薬企業が2年前より臨床治験を行っていた。約70%の患者さんで有効と考えられている。またBH4は血管拡張に関わる酵素にも働くため心筋梗塞の治療効果も期待されており、会議のもう一つのトピックとなっている。

### 記

大会名：BH4・2006 ～ テトラヒドロビオプテリンの臨床応用に関する国際会議

ホームページ： <http://www.pku-bh4.com/index.asp>（英語版のみ）

日時：平成18年9月10日（日）～11日（月）

会場：仙台エクセルホテル東急

対象：研究者、医師

参加者：約120名（米国・欧州各国から50数名、およびアジア各国・豪・南米・日本）

### （お問い合わせ先）

東北大学大学院医学系研究科・遺伝病学

担当：松原洋一、呉繁夫

電話番号：022-717-8139、8140